

# 大賀郷小学校 人権研究の概要

## 1 研究主題

# 互いのよさを認め合う子の育成

## 2 主題設定の理由

自尊感情に関する児童の実態調査を「自尊感情測定尺度（東京都版）」を活用して行った結果、全体的に「自己評価・自己受容」がやや低い数値となっている。実際に児童の様子を見ていても、自信がなく自己を否定的に見る傾向があるように感じられる場面がある。また、「関係の中での自己」がやや高い数値であり、人の視線を気にして自分の考えを伝えることを躊躇する傾向がある児童がいることが分かる。これらのことから、本校の児童には以下の指導が必要であると考えた。

- 自分のよさや個性を認識する場面や経験を増やすこと。
- 自分の判断や行動に自信をもたせ、自分のよさが感じられる場面や経験を増やす。
- 同じ事柄でも多様な考え方があり、受容できるような場面を設定すること。

このような指導を通して、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認められる児童」を育成したいと考え、上記の研究主題を設定した。

## 3 研究仮説

- 人権教育全体計画に基づき、各教科・領域で人権教育を意図的・計画的に取り組むことで人権感覚や人権意識が高まる。
- 特別活動の学級活動と児童会活動の話合い活動において、自他の意見を伝え合い、集団決定し、実践する活動を充実させることによって自尊感情が高まり、自他のよさを認め合う児童が育つ。
- 毎時間の道徳授業において、子供に内在する様々な資質を高め、諸能力を身に付け、それらを高めていくことによって自己実現を図り、自他を大切にしている児童が育つ。

## 4 研究の視点

- 人権教育の視点を明確にした学習指導の充実
- よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成
- 自立や自己実現を図る指導の充実

## 5 研究内容

- 「自尊感情測定尺度（東京都版）」を活用し、自尊感情の調査を行う。
- 人権教育全体計画に基づき、各教科・領域で人権尊重教育の実践を行う。
- 特別活動の話合い活動に全教員で重点を置き、取り組む。
- 毎時間の道徳授業を充実させる。
- 人権尊重に関する掲示物を作成する。

## 6 検証計画

○児童の自尊感情の調査（変容の見取り）

○学級活動・児童会活動・道徳ノートなどの児童の記録から児童の内面の変容を読み取る

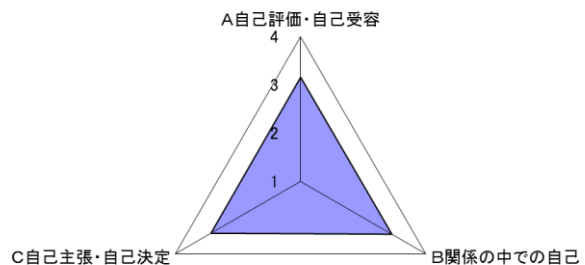
## 7 実態調査 自尊感情測定尺度（東京都版） 学級等集団の傾向

本研究でキーワードとなる自尊感情の調査を行った。各学年で在籍人数に違いがあるため、簡単に比較することはできないが、学級集団の傾向を見る手掛かりとして指導に生かしていく。

学校全体としての傾向は全体的に「自己評価・自己受容」がやや低い数値となっている。また、「関係の中での自己」がやや高い数値である。自信がなく自己を否定的に見る傾向、人の視線を気にして自分の考えを伝えることを躊躇する傾向があると言える。

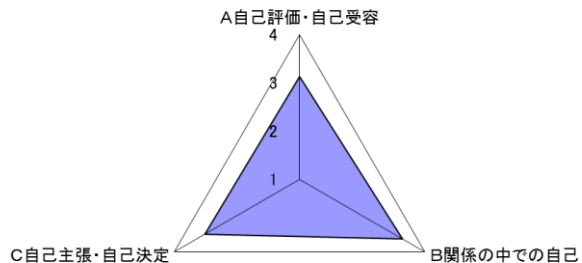
1年生25名【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	3.16
B 関係の中での自己	3.19
C 自己主張・自己決定	3.15



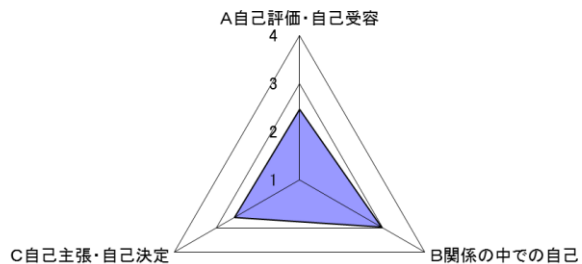
2年生20名【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	3.13
B 関係の中での自己	3.46
C 自己主張・自己決定	3.27



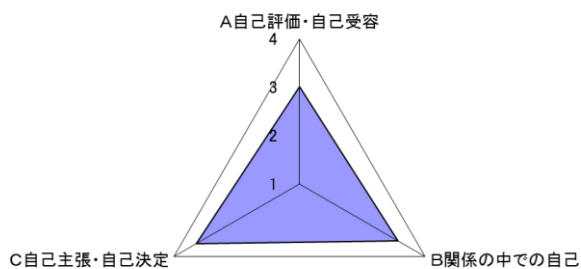
3年生15名【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	2.46
B 関係の中での自己	2.96
C 自己主張・自己決定	2.56



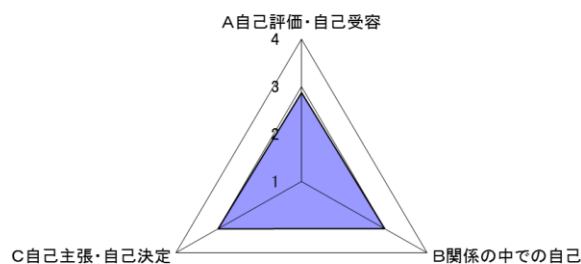
4年生 11名【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	3.01
B 関係の中での自己	3.35
C 自己主張・自己決定	3.47



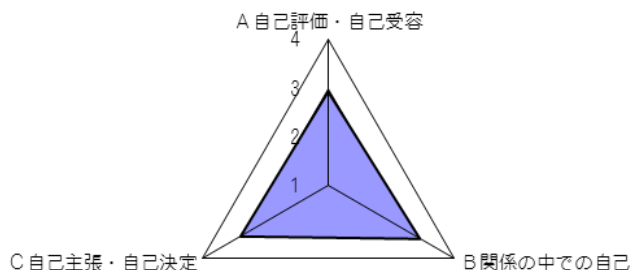
5年生 27名【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	2.87
B 関係の中での自己	2.98
C 自己主張・自己決定	2.99



6年生 23名【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	2.59
B 関係の中での自己	3.24
C 自己主張・自己決定	3.01



全学年【平成30年6月実施】

A 自己評価・自己受容	2.87
B 関係の中での自己	3.19
C 自己主張・自己決定	3.06

